

航空機交通流分析のためのインタラクティブ大規模可視化

大阪大学 サイバーメディアセンター 安福健祐

目的：航空機交通流シミュレーション結果を可視化して分析を行う。

内容：エージェントベースの航空機交通流シミュレーション結果およびCARATSオープンデータ等の実際のフライトデータから航空機の軌跡を大規模可視化するため、本センターの24面大型立体表示システムに対応した。

結果：一般的なディスプレイよりも大型で12Kという高解像度のタイルドディスプレイウォールを用いることで、画面に日本全体を表示しても、視野全体で個々の航空機の動きを直観的に把握することができた。また、ステレオ立体視にも対応しており、平面図視点で表示しても、航空機の高低差を立体視によって確認することができた。

利用した大規模可視化システム：
24面大型立体表示システム



24面大型立体表示システムでの可視化結果